

大学生や高校生による 不登校児童生徒へのオンラインでの支援活動 ～オンラインでの新しい場所の創出～



For Everyone Study(=略してFES)
代表兼コーディネーター 植竹智央

自己紹介

石岡市災害救援ボランティアチーム 入会（平成23年4月～平成30年5月休会）
茨城県BBS連盟 石岡地区設立・入会（平成24年6月～）
石岡市ボランティア連絡協議会 会員（平成26年11月～平成30年5月）
茨城県南生涯学習センター エンジョイホリディ ボランティア（平成24年11月～平成29年3月）
日本マネジメント協会 マネジメント検定（旧経営学検定上級） 最年少合格者（平成28年3月）
合同会社J-doc company 所属 コーディネーター（平成28年4月～）
有限会社ハラダ板金 業務委託 広報担当（平成28年4月～）
NPO法人まちづくり市民会議 困窮家庭児童生徒への学習支援事業 学習指導員（平成28年8月～）
若山行政書士事務所 補助員（平成29年4月～12月）
Studio Oz English school スタッフ（平成30年3月～）
第4回内閣府青年リーダー研修会 参加青年・茨城県より推薦（平成30年1月）
第40回日本中国青年親善交流事業 参加青年（平成30年10月～11月）
NPOマネジメントフォーラム2019 参加青年（平成31年2月）
石岡市まちづくり推進委員会 副委員長（令和元年9月～令和3年8月末）
個人事業主・ワークショップアーティスト 設立（令和2年1月～）
茨城県青少年健全育成審議会 委員（令和2年7月～）
For Everyone Study 設立 代表（令和2年8月～）
株式会社IRODORI 所属（令和4年6月から予定）



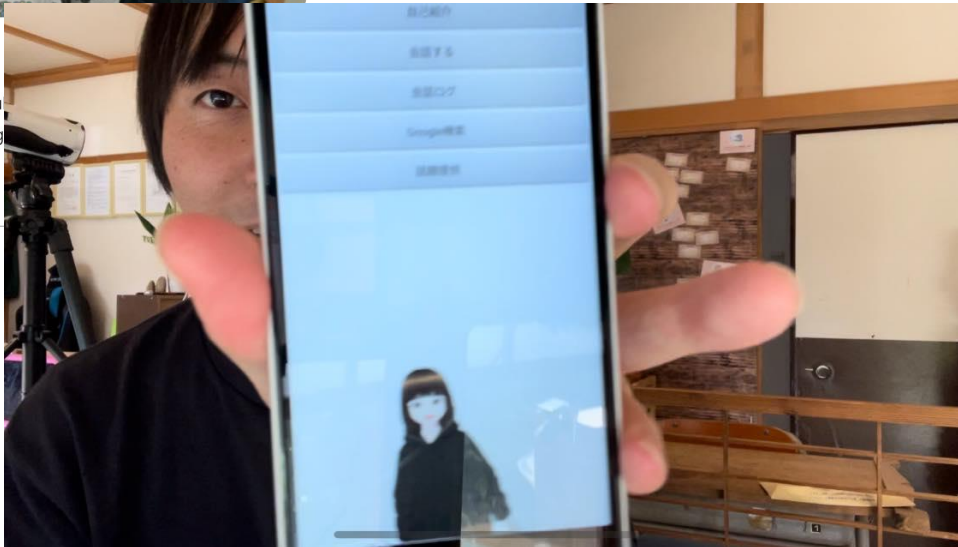
マサチューセッツ工科大学(MIT)が提供している、Android対応アプリケーションソフトウェアを開発するソフトウェアのコンテスト



The theme of this season's competition is **Community**. Think of a cause that is meaningful to you and your community, and identify a solution to a specific problem related to that cause. Submissions should align with one of the following issue areas:

- Arts & entertainment
- Education
- Health & wellness
- Social justice
- Sustainability & environment

We strongly encourage submissions from people who have been previously judged.



APP OF THE SEASON

App of the Season is a free, virtual appathon hosted by the App Inventor Foundation that encourages dreamers, changemakers, and doers around the world to build mobile apps for a cause. The goal of the competition is to develop a mobile app using App Inventor that aligns with the competition theme of Community and best demonstrates technical skill, design, creativity, and impact.

Submissions are now closed.

App of the Season Winners Tackle Community Issues with Innovative Apps

Winning submissions address drug overdose, human trafficking, and more using cutting-edge technologies like ChatGPT and IoT.

The five winning entries of the inaugural [App of the Season](#) competition—AI REI, COMBEE, Avid Reader, Found, and Smart Medicine Dispensing System—developed innovative mobile apps to tackle local issues in their communities. Honorable mentions were awarded to XôDengue, Asthma Manager, and Smart Garden.

App of the Season is a free, virtual appathon hosted by the [App Inventor Foundation](#). It encourages dreamers, changemakers, and doers around the world to use App Inventor to build mobile apps for a

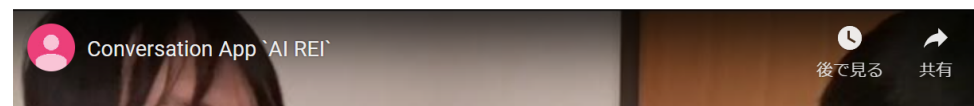
Adult Track

Winner: AI REI

By Kishimoto Kazuki, Takei Rei, Uetake Tomohiro (Japan)

Social isolation and loneliness have become an issue in Japan due to an increase in the number of young people who have stopped attending school or withdrawn from society. Even if they try to reintegrate into society, because of their limited interaction with others, they feel worried about successfully interacting with others. As a result, there is a possibility that they may fail in schooling or employment. We heard that a friend, who had been in social withdrawal, struggled to find a job. We wanted to help young people who are trying to reintegrate into society. Our application is designed to improve communication skills for those who have difficulty with social interaction.

Notable technologies used: ChatGPT and Google Docs integration



コンテストの成人部門で優秀賞も受賞しました

Congratulations to the App of the Season Spring 2023 winners!

We are proud to announce the winners of the inaugural App of the Season competition. There were a total of 73 submissions from 22 different countries and regions. It was clear that every participant thought deeply about how to use technology to make a genuine impact on their community. The following apps stood out for their innovative use of technology and strong potential for social impact:

Youth Individual Track

- **Winner: Avid Reader** by Jiaxuan Ethan Dai (China)
- **Honorable Mention: Asthma Manager** by Matthew Wang (Texas, United States)

Youth Team Track

- **Winner: Found** by Emma Anderson, Isabelle Ashley, Makayla Davenport (Montana, United States)

自己紹介

業務委託

NPO等の伴走支援会社合同会社 J-doc

行政関係の講師の会社 IRODORI

石岡市のPTA連絡協議会ICT支援員

報酬

ワークショップの講師（自分）

舞台イベントの
音響、照明、舞台コーディネート

PCやスマートフォンの出張講座

給与扱い

市内中学校の心の相談員

建設会社の社長秘書

石岡幼稚園学童ボランティア
コーディネーター

ボランティア活動

For Everyone Study 代表

罪を犯した子供たちに社会復帰の
ボランティア活動(BBS会)
関東地方BBS連盟 副会長
茨城県BBS連盟 会長

学校&教育Updateグループ 副管理人

審議会関係

石岡市総合計画審議会 委員

茨城県青少年健全育成審議会
委員

茨城県青少年育成協会 理事

自己紹介

業務委託

NPO等の伴走支援会社合同会

行政関係の講師の会社 IRODORI

石岡市のPTA連絡協議会ICT担当役員

ICTで困っている人のサポート

給与扱い

市内中学校の心の相談員

建設会社の社長秘書

石岡幼稚園学童ボランティアコーディネーター

学校であぶれた子を地域で拾う

For Everyone Study 代表

若者のボランティアコーディネート

ボランティア活動(BBS会)
関東地方BBS連盟 副会長

学校&教育Updateグループ 副管理人

ボランティア活動

報酬

の講師（自分）

舞台イベントの
音響、照明、舞台コーディネート

PCやスマートフォンの出張講座

審議会関係

石岡市総合計画審議会 委員

茨城県青少年育成協会 理事

委員

私たちが活動の対象にしている人達

不登校などの学校が苦手な子どもたち（19人）
インターナショナルスクールの子どもたち（1人）

※これまでの46人の小学1年生～高校3年生を支援

私たちが一緒に活動をしている人達

子どもに関する仕事を志すボランティアをしたい大学生（31人）
不登校経験のある高校生（2人）
こうした学生たちを支えたい社会人（9人）

私たちが解決したい社会課題

青少年の社会的な孤独・孤立の防止

ボランティアをしたい大学生たちの活動の場の創出

私たちが実践している活動



For Everyone Study

不登校関係者
情報交換会

1対1の活動
(個別サポート事業)
学習支援
コミュニケーション活動

オンライン
ゲーム交流会

共同研究

私たちが実践している活動

①1対1での個別サポート事業（学習支援活動）



1対1でZoomをつなぎ、週に1回1時間オンライン教材や児童生徒の学習教材を活用し、学習をする。
斜めの関係性を築き児童生徒が学習の習慣の定着や学習への苦手意識の解消/自己肯定感の醸成が目標

私たちが実践している活動

①1対1での個別サポート事業（学習支援活動）

新・ネットレの学習教室【無料ソフト】 × 新・ネットレの学習教室【無料ソフト】 × 小学/理科/学習/無料アプリ × 小学 6 年/理科/物質とエネルギー/ × +

← → ↺ nll.red/rika_syougaku/ensyuu6_1.html ☆ ほかのブックマーク

アプリ Gmail YouTube アメーバブログ (アメブ... Facebook LINE Business ID YouTube マイドライブ - Google... フォト - Google フォト Instagram ほかのブックマーク

かんぼて

小6理科《基礎》

ものの燃え方 17点

1分18秒

おなじ

わからない

ない

ある

どちらもない

戻る 予習 ×

ランキング

1回目【問4】 次の問いに答えなさい。

空気中の気体

二酸化炭素など
③ その他

酸素
② 21%

ちっ素
① 78%

＜ものの燃え方＞

酸素には物を燃やすはたらきがありますが、ちっ素や二酸化炭素にはものを燃やす働きが□□。

○ × × 問4 問5 問6

ランキング

335066_s.jpg 420604_s.jpg 1424855_s.jpg

すべて表示 ×

Net Lesson Lab

おなじ

わからない

ない

ある

どちらもない

戻る 予習 ×

ランキング

335066_s.jpg 420604_s.jpg 1424855_s.jpg

すべて表示 ×

学習支援の工夫や使用されているツール等について

ネットレ

工夫していること

ネットレ式《中1》数学

①初めに分類を選んで下さい。

正負の数 文字と式 1次方程式 比例・反比例 平面図形 空間図形 資料の活用

②次に『文字と式』の課題を選んで下さい。

文字を使った式⇒	2章の用語	積の表し方1	積の表し方2	積の表し方3	積の表し方4
文字を使った式⇒	累乗の表し方1	商の表し方1	累乗の表し方2	商の表し方2	×÷で表す
文字式で表す⇒	文章(代金1)	文章(代金2)	文章(速度1)	文章(速度2)	文章(数)
文字式で表す⇒	文章(図形)	文章(割合1)	文章(割合2)	文章(濃度)	
代入と式の値⇒	式の値(基)	式の値(標1)	式の値(標2)	式の値(標3)	式の値(練習)
一次式の加減⇒	同じ項の計算(基)	同じ項の計算(標1)	同じ項の計算(標2)		
一次式の乗法⇒	1次式の乗法(基)	1次式の乗法(標)	初 $\pm\#(\#+\#)$	初 $\pm\#(\#+\#)$ 分数	$\pm(\#+\#)\times$ 分数
一次式の除法⇒	1次式の除法(基)	1次式の除法(標)	初 $(\# \pm \#) \div \#$	$(\# \pm \#) \div$ 分数	
式の加減乗除⇒	$(\#+\#)+(\#+\#)$ 練 準	$(\#+\#)-(\#+\#)$ 練	$(\#+\#)\pm\#(\#+\#)$ 練	$\#(\#+\#)\pm\#(\#+\#)$ 練	分 $(\#+\#)\pm$ 分 $(\#+\#)$

・画面を観るため、対面の塾など
と違って、視点が集中しやすいの
ではないか？

・LINEグループに保護者から活動
の際に行う学習教材等を写真で
送ってもらう

→それを基に学生がホワイトボー
ドで説明していく

私たちが実践している活動

②1対1での個別サポート事業（コミュニケーション活動）



1対1でZoomをつなぎ、週に1回1時間、大学生や不登校経験のある高校生が子どもたちと一緒に話やゲームをする。家族以外の人とコミュニケーションを取る機会を創り、他者に慣れるようにして、斜めの関係性を創出しようとしている。

私たちが実践している活動

①②1対1での個別サポート事業での連絡体制

○連絡用LINEグループ

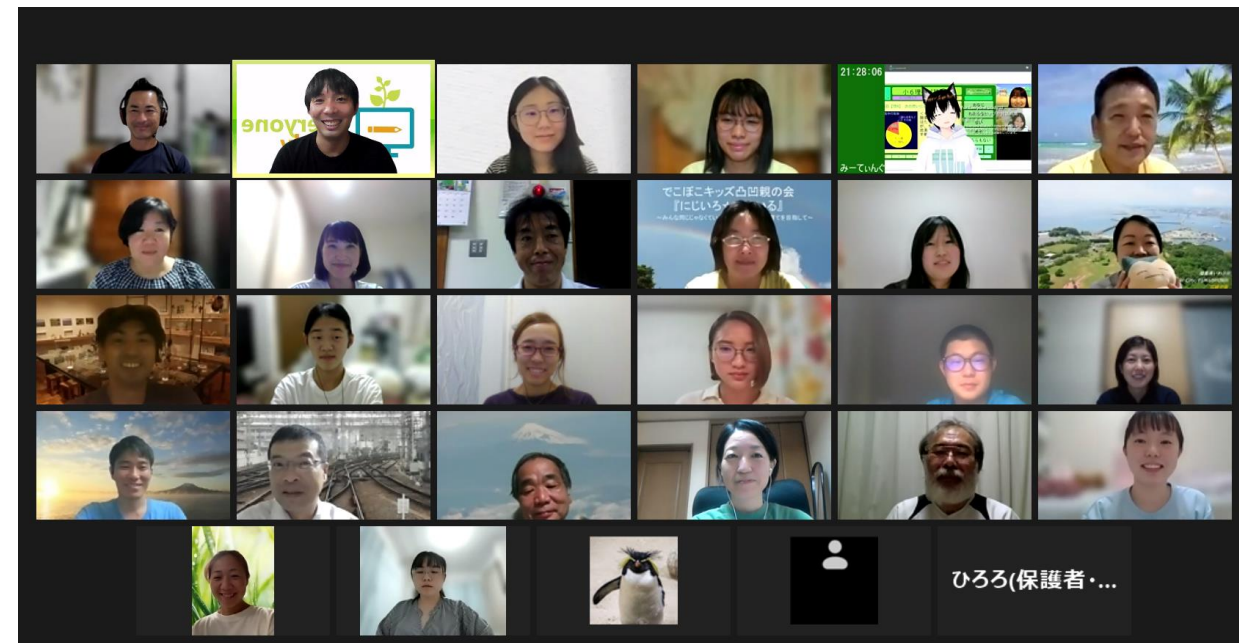
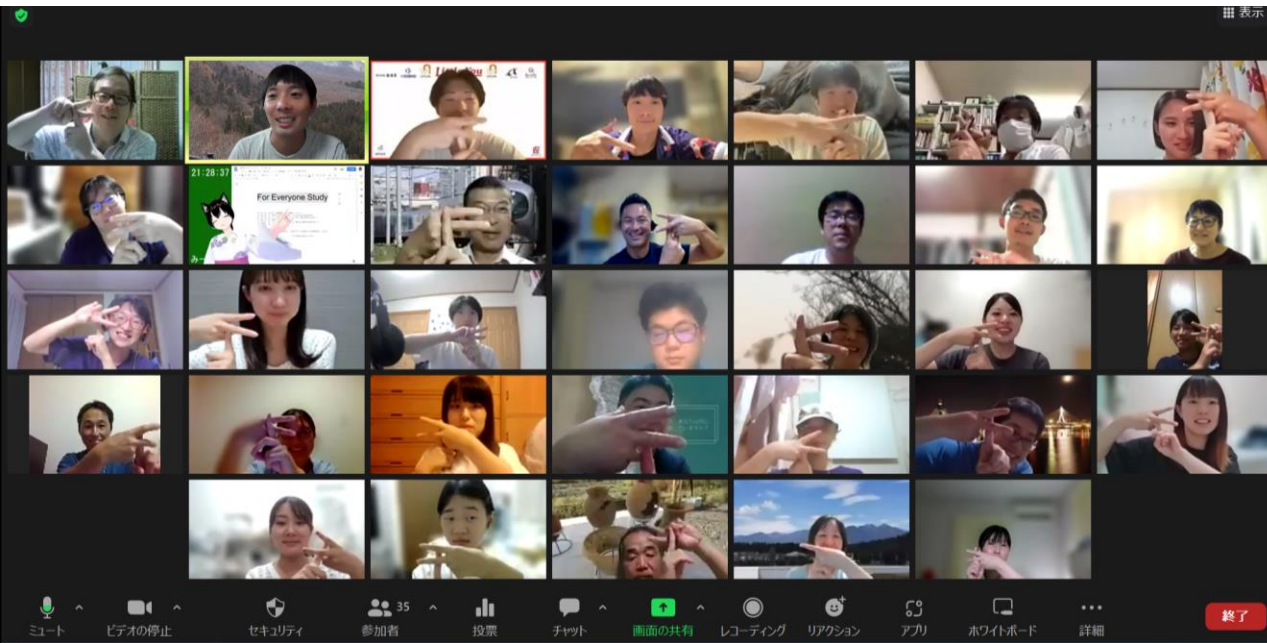
- ・ 児童生徒の保護者
- ・ 担当の学生
- ・ FESの公式
- ・ 児童生徒本人(LINEを持ってる場合)

○連絡内容

- ・ リマインド、日程調整、相談など

私たちが実践している活動

③不登校関係者情報交換会



2か月に1回、平日の20時～21時半開催。
スタッフ、保護者や先生たちが交流
→違う立場の人で意見交換

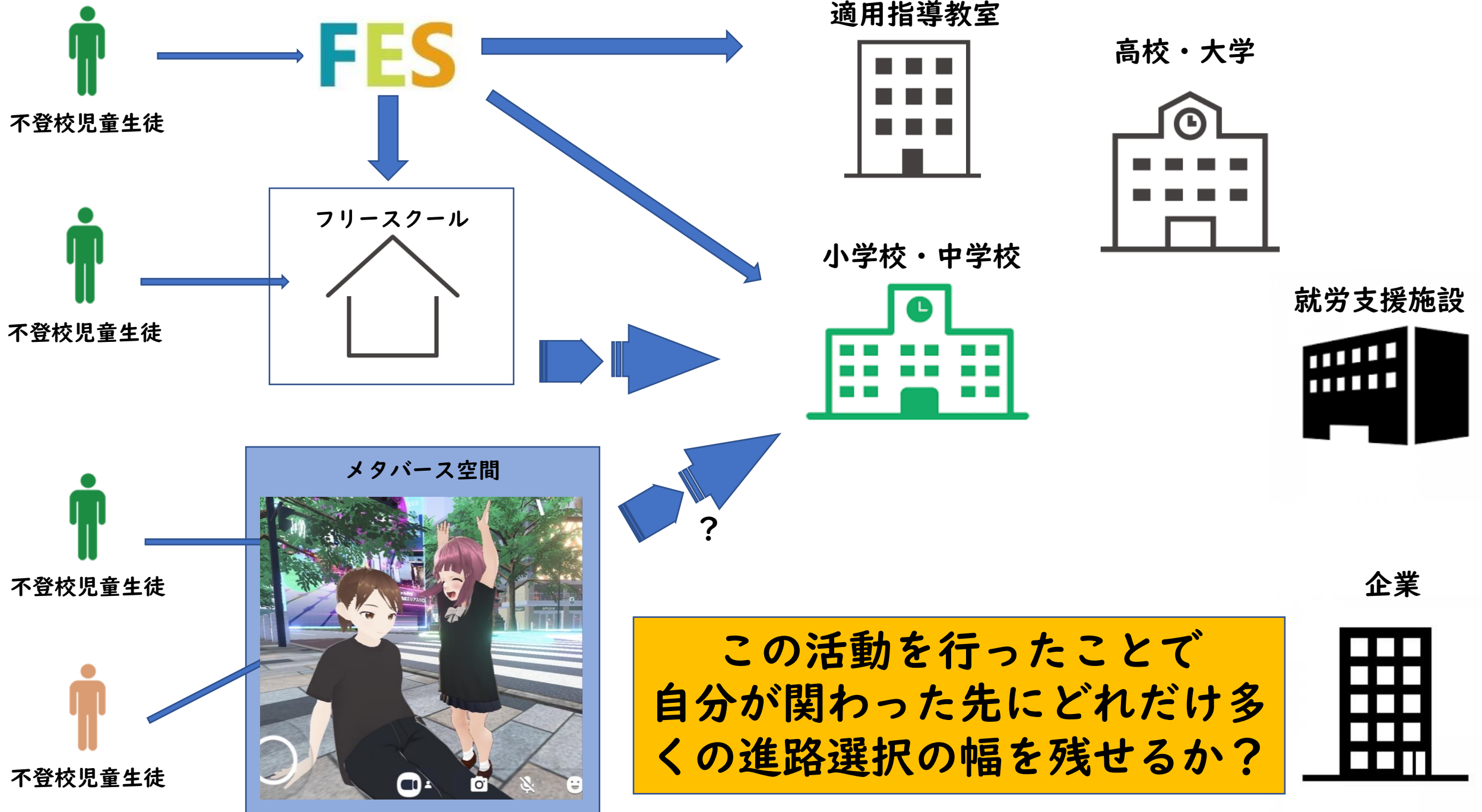
私たちが実践している活動

④オンラインゲーム交流会



安心できる環境（自宅など）で他者と交流できる。
→最近では学生が中心に「ラウンジ」というゲームを実施

☆メタバースの活用
・顔を出すのが恥ずかしい子とつながる機会を創ろうとしました



関わった子どもたちが「人により関わりたい」
と思えるようにするために（理念）



GOAL

FES

音声のみ

文字のみ

※不登校の子たちの学校への登校刺激をするものではない。

子どもたちにとっての学校・家庭以外のオンラインに
よる居心地のいい場所の提供（存在意義）



リスク要因

- ・ 児童の特性
- ・ 家族の心理状態
- ・ 親の交友関係
- ・ 外部情報
- ・ 親の経済状況

回復要因

- ・ 親のかかわり方
- ・ 先生のかかわり方
- ・ 第3の居場所
- ・ セルフコントロール



- ①オンライン学習支援 ②コミュニケーション活動
- ③不登校関係者情報交換会 ④オンラインゲーム交流会

最初の3回は無料

基本料金

共通

連絡調整・コーディネート業務分
オンライン座談会

回数チケット × 4枚	4,500円
回数チケット × 6枚	6,000円
回数チケット × 12枚	10,000円

+

オプション

料金：1,200円（後払い）
対象：活動が終わったけど再度担当のスタッフと話してみたいなど

共同研究（ポスター発表）

常磐大学：島田茂樹准教授

○スタッフの育成プログラム（日本行動分析学会：2021年9月寄稿）

○活動を受けての子どもたちの変化（日本行動分析学会：2022年9月寄稿）

郡山女子大学：宇治和子准教授

○オンライン学習支援の社会心理学的な効果（日本精神衛生学会：2021年12月寄稿）

秋田看護福祉大学：山田克宏助教

○不登校児童生徒へのオンライン学習支援の在り方（日本福祉図書文献学会：2022年8月寄稿）

宇都宮大学：長谷川真由美教授（子ども環境学会：2022年7月寄稿）

○大学生や高校生による不登校児童生徒へのオンラインでの1対1の支援活動

活動しながら、共同研究している理由

「善い」活動を「良い」活動のままで終わらせない

多角的な視点から意見をもらう



活動の過程や効果を整理・発信し、再現性を高める



青少年の課題に取り組もうと考えている人たちが

同じような活動をしてもらうため

ほかの分野・事業などに転用できるようにするため

(ひきこもりや障がい者の支援など)

「自分たちだけ」が不登校支援をしたいわけではなく、

「日本で孤独・孤立を感じている子どもたち」が、

もっと人に関わりたいたいと思えるようにするために（理念）

学校や家庭以外のオンラインでの居心地のいい居場所を得
てもらうため（存在意義）

に活動しています。

FESの活動による社会的インパクト

☆活動を受けている不登校児童生徒が・・・

自信の回復

再度登校・放課後登校・適用指導教室登校（令和4年5月：5人/13人）

- ・子どもに関わる仕事を目指す大学生の視野の拡充・スキルアップ
- ・元当事者の活躍できる場の創出
- ・不登校児童生徒を持つ保護者や先生同士の相互理解の場の創出
- ・スタッフの大学生がFESの活動をテーマに卒業論文を執筆

いばらきチャレンジアワード後の活動



レンタルPCの貸出事業
支援を受けている子でPCを持っていない
家庭へのPCの貸出

活動のサポート料をFor Everyone Studyに入金してもらう際に追加で10,000円入金。PCの購入額分の支払いがあった場合には、その家庭に直接お渡しする形を計画。



保護者

どのPCを購入したらいいのかわからない



For Everyone Study

代わりにスペックに見合うPCを購入して、貸し出し

活動後そのままお渡しするため、
その家庭で好きなソフトを入れ使いやすいようにしている

対面活動派遣事業

支援を受けている子のところに大学生が会いに行く



活動を受けている子のところに学生が会いに行くことで、
「もっと人に関わってみたいと思う気持ちを促進できないか」
という考えのもと実行中



対面で会うことでどんな気持ちの変化があるのかを
現在、共同研究の一つでまとめて、学会発表する予定

もらっていた質問に関して

不登校の背景にはどんな原因が多いのか

子どもは自分の行動の理由を言語化することが難しいため
原因を探るのは難しい

しいて言えば、
担任の先生との関係性、
学校のリズムに合わないこと、
友人関係
保護者と学校との関係性